

# 御前山ビオトープ通信

平成15年10月10日

## 第2号

編集： NPO「美しい田園21」 清野



メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)

ホームページ：

(本号はホームページ掲載記事を再編集したものです)

### 目次

- 1 那珂(中)庭ビオトープ完成
- 2 柳河小学校の児童が総合学習見学  
(平成15年10月9日付農林建設情報新聞)

### 【案内図】



## 1 職員手作りの那珂(中)庭ビオトープ完成



関東農政局那珂川沿岸農業水利事業では現在、御前山ダムを建設中であるが、ダムサイトでは数多くの希少動植物が発見され、環境への配慮が大きな課題となっている。

このため、環境保全対策検討委員会を設置し、学識経験者の指導助言を踏まえながら取り組んでいるところであるが、職員自らも実践を通じた学習が必要として、今春からビオトープ造りに取り組んでいる。

最初はダム仮排水路転流や「田んぼの生き物調査」で捕獲した魚類等を事業所ロビーに大中小の三つの水槽を設置して展示し、那珂川本川系(ハヤ、ハゼ、アユ、)、水路系(タナゴ、モロコ、ドジョウ、水カマキリ)、田んぼ系(メダカ、オタマジャクシ、タニシ)とおおまかに分類して生態系を観察していたが、職員が熱心に魚とりに奮闘した成果があがりすぎて水槽が手狭になってきたことから、中庭に池を造ろうということになった。

事業所としては最終的にはダム流域の山林、休耕田等を確保して本格的なビオトープを整備し、ダム周辺の希少種(魚、昆虫、湿生植物等)の移植・保全を進める予定であり、場所選定、仮移植などの準備を併行して進めている。

所内ビオトープはその前段として実証的な役割を担っており、職員の体験学習、環境教育、地域交流などにも活用する予定。





計画設計のアウトラインはビオトープ管理士でもある清野所長、施工は職員による直営方式、主要工事内容は池が三つ、庁舎屋根の雨水を池に導水し三池を循環させる施設、湿生植物、魚類等の移植、総事業費は防水シートだけで5千5百円（11m×5百円）、工期は気が向いたときの段階的な施工として未定であったが、10月初めに概成した。

10月3日(金)には3池を生態系別に区分し、河川溜池系にはヒシ、ホテイアオイ、藻類を、水路系にはナガエミクリ、クレソン等を、田んぼ系にアギナシ、タコノアシ、ガマ、ミントなどの湿生植物や浮遊植物を移植、植栽。

続いて、予てから捕獲してあった水槽の魚や昆虫類などを同じく生態系別に放流すると、水槽と違い広い環境に順応して元気に泳ぎだした。

また、何処からかカエルやトンボ、アメンボなども勝手にやってきて仲間が増え、次第に賑やかになってきている。数週間前には、ザリガニを数百匹捕獲して放していたが、これは10月18日、19日の茨城県民祭において事業所の広報ブースにて水槽の魚とともにザリガニ釣りとして出演予定であり、早速の出番を控えている。

さらに、看板も手作り作成中であり、名称は「**那珂(中)庭ビオトープ**」と命名した。「来所の際は是非ご見学ください。」とのこと。



## 2 近所の柳河小学校の児童が総合学習見学



(平成15年10月9日 農林建設情報新聞に掲載)